



2024年9月15日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2023年5月～2024年4月

経営理念

人々の豊かな暮らしと環境保全に貢献する

環境経営方針

当社の経営理念に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力するとともに環境経営の継続的な改善を実施します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。
- ② 濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
- ④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。
また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、お取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006 年 12 月 1 日制定

2021 年 10 月 26 日改訂

有限会社 大宮工機
代表取締役 宮城光秀

【1】 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機
代表取締役 宮城光秀

2) 環境管理責任者

石原賢一

3) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡八重瀬町字外間 99 番地 1
電話：098-851-9203 FAX：098-851-9204
ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>
山川機材センター：沖縄県島尻郡南風原町字山川 285 番地 1
東風平機材センター：沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平 729 番地 1

4) 事業の内容

- ・ 建設機械のレンタル・販売・修理
- ・ 赤土対策・濁水処理事業
- ・ レンタカー事業

5) 事業年度

5 月 1 日から翌年の 4 月末日まで

6) 事業の規模

表 1. 事業の規模

活動規模	単位	2019 年度 2019.3～ 2020.2	2020 年度 2020.3～ 2021.2	2021 年度 2021.5～ 2022.4	2022 年度 2022.5～ 2023.4	2023 年度 2023.5～ 2024.4
売上高	百万円	384	371	374	425	525
社員数	人	37	36	34	38	41

※ 社員数は年度末時点での人数とする。

7) 認証・登録範囲

全組織、全活動

【2】主要な環境経営目標の内容と取組結果

下記①～②より、目標値を設定した。

- ① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。
- ② 2020年5月に事務所及び機材センターの引越を行ったため、2020年度以後の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より1%ずつ下回ることを目標とする。

表2に過去年分の実績値と 23年度～25年度の目標値を示す。

表2. 過去3年間の実績値と目標値

項 目			'20 年度	'21 年度	'22 年度	基準値	'23 年度 目標値 (前年度 -1%)	'24 年度 目標値 (前年度 -1%)	'25 年度 目標値 (前年度 -1%)
	売上高	百万円	398	374	425				
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	124	135	99	99	98.0	97.0	96.0
	化石燃料	ℓ/百万円	167	152	168	152	150.5	149.0	147.4
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.86	0.86	0.68	0.68	0.67	0.67	0.66
水使用量	水使用量	m ³ /百万円	2.27	1.78	1.48	1.48	1.47	1.45	1.44
二酸化炭素総排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円	97.9	106.1	78.2	78.2	77.4	76.6	75.9
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	411	374	414	374	370.3	366.5	362.8
	総排出量	kg-CO ₂	188,953	179,641	209,288	179,641	177,845	176,048	174,152
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	4.29	3.92	2.80	2.8	2.77	2.74	2.72
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.55	2.84	1.95	1.95	1.93	1.91	1.89
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	50.0	24.8	21.7	21.7	21.5	21.3	21.0
	産業廃棄物 (単純焼却)	kg/百万円	41.4	18.9	20.4	18.9	18.7	18.5	18.3

表 3 に、目標値と結果及び評価について示す。

表 3. 目標値と結果及び評価

項 目		単位	目標値	23 年度 結果	結果 (±%)	評価
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	98.0	52	△ 46.9	○
	化石燃料	ℓ/百万円	150.5	134	△ 10.7	○
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.67	0.58	△ 13.4	○
水使用量		m ³ /百万円	1.47	1.43	△ 2.7	○
二酸化炭素総排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円	77.4	40.9	△ 47.2	○
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	370.3	330	△ 10.8	○
	総排出量	kg-CO	177,845	195,046	9.7	×
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(再生利用)	kg/百万円	2.77	1.66	△ 40.1	○
	一般廃棄物(焼却発電)	kg/百万円	1.93	1.84	△ 4.66	○
	産業廃棄物(再生利用)	kg/百万円	21.5	38	76.74	×
	産業廃棄物(単純焼却)	kg/百万円	18.7	16.5	△ 11.8	○

※2023 年度の CO2 排出係数は、沖縄電力(株)2019 年度調整後排出係数 0.787kg-CO₂/kWh を使用した。

※目標値と結果について

2023 年度は 11 項目の目標値に対し、9 項目で達成する事ができた。

売上増(前年比 23.5%増、525 百万)と社員数増(前年比 3 人増、41 人)に伴い、廃棄物(単純焼却)は増加したが、購入電力は太陽光発電導入により減少し、紙資源・化石燃料・一般廃棄物排出量も減少する結果となった。

【3】主要な環境経営計画の内容と取組結果の評価

環境方針①

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。	(1) 発電機（出力 25～60kVA）は、低騒音型が占める割合 100%を維持する。 (2) 従来型の発電機より環境負荷の少ないインバーター式発電機の導入を進める。	通 年	2023 年度は低騒音型発電機を 14 台（25kVA 4 台・45 kVA 10 台）とインバーター式発電機 4kVA を 5 台導入した。大型発電機は、低騒音型が 100%を占めている。小型の発電機は全体の 61%がインバーター式になっている。

環境方針②

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	(1) 2022 年度の濁水処理装置保有台数は 56 台で稼働率 72.4%、流出防止土砂量は 612 t であった。2023 年度は稼働率 75%、土砂量 650 t をめざす。 (2) より高度な処理（透明度をあげる）を行う装置を開発し、それを現状の装置に付加していく。 (3) 情報発信と濁水処理装置の普及に努める。	通 年	濁水処理装置の保有台数は 81 台で昨年度より 25 台増え、稼働率も 1.2%増の 73.6%となった。また流出防止土砂量も昨年度より 21.4%増の 743t となった。稼働率は目標値には届かなかったが、流出防止土砂量は目標値を約 12%上回った。保有台数と稼働率が増加し、濁水処理事業の拡充が図られている。処理装置に改良を加えたことによって、より高度な（透明度の高い）処理を安定して行えるようになり、お客様から良い評価をいただくようになった。今後も濁水処理事業の普及活動に取り組み、より多くの土砂流出防止に貢献したい。

環境方針③

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。	(1) 2009 年 1 月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。濁水処理装置を 1 台納入する毎にサンゴの苗を 1 本移植放流する。また、長期間レンタルの場合は 6 ヶ月毎に 1 本追加して、お客様に「海からの感謝状」を届けている。今年は 130 本を目標とする。	通 年	移植放流数は 176 本で、昨年度より 58 本増加した。 濁水処理装置の保有数と稼働率が増加したことと、昨年度から長期間レンタルしている場合は、6 ヶ月毎に 1 本追加移植しているので、移植放流数が増加する結果となった。これからも濁水処理事業の普及に努め、より多くのサンゴの移植放流に取り組んでいきたい。

環境方針④

方 針	2023 年度の環境経営計画	環境	2023 年度の取り組み結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	(1) 電力 ①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ②電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。 ③事務所および休憩室の冷房の室温を 26℃以上、暖房を 23℃以下に設定する。夏場は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。また、休憩室の冷房器具を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ④事務所のエアコン、プリンタ等を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ⑤パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。 ⑥太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を進める。 ⑦必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。 ⑧エアコンの清掃をこまめに行う。	通 年	外間事務所の 100V 使用量は 5,070kwh で、昨年より 683kwh (11.9%) 減少した。太陽光発電を使用したことにより減少したと考えられる。 200V の使用量は 3,522Kwh で、昨年度より 5,306kwh (60.1%) 減少した。2022 年 1 月に浄化槽を 200V から 100V に変更したことにより、大幅な減少につながったと考えられる。 機械置場の 100V は 1,874kwh で、昨年度より 89kwh (5%) 増加と大きな変化はなかった。200V は 215kwh で、昨年度より 109kwh (33.6%) 減少した。レンタル品の洗浄作業や点検作業を山川機材センターで行うようになったことが原因と考えられる。
	(2) 水資源 ①節水コマの使用や蛇口をレバー式に取替えるなどして、無駄を省く。 ②水漏れをふせぐ。(事務所・ヤードの水道管や蛇口等の水漏れ確認を月 1 回行う。) ③社員一人一人が節水を心がけるように、水道がある所に節水を促す掲示をする。		外間事務所の使用量は 232 m³で、昨年度より 4 m³ (1.7%) 減少と大きな変化はなかった。機械置場の使用量は 23 m³で、昨年度より 16 m³ (41%) 減少した。レンタル品の洗浄作業を山川機材センターで行うようになったことが原因と考えられる。

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	(3) 紙資源 ①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。 ②コピー用紙、名刺、トイレットペーパーなどは再生紙を使用する。 ③社内会議ではプロジェクターを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。 ④コピー用紙の裏面をメモ用紙として再利用する。 ⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をし、連絡事項などは社内コミュニケーションアプリを使用する。	通 年	紙資源の使用量は 304kg で、昨年度より 5kg (1.6%) 増加にとどまり、さほど変化がなかった。売上は 23.5%増加したが、伝票類の使用量は前年と同じであった。これは、濁水処理装置等の長期間レンタルが多く、配送回数が増えなかったことが考えられる。今後も、社内で使用する資料はできるだけ両面印刷を心がけ、会議ではプロジェクターを活用をして紙資源の使用を抑制していきたい。
	(4) 廃棄物排出量の削減 ① 一般廃棄物の分別を徹底する。(燃やすゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン等) その内、有価物(新聞、OA 用紙、段ボール、雑誌) は、障害者福祉サービス事業所ワークプラザ南風へ提供する。 ②乾電池は、できるだけ充電式乾電池を使用する。 ③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。 ④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。(再利用した紙も再生紙とする。) ⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能なものとするように努める。 ⑥確実に計測をするために、担当者を決める。	通 年	再生利用の一般廃棄物排出量は 837kg で、昨年度より 359kg (30%) 減少した。これは、2023 年 5 月に山川機材センターに設置していた飲料販売機を撤去したことや、段ボールの計測漏れが影響したためと考えられる。計測漏れの原因は計測手順の不明確だったためと考えられる。今後は担当者を 2 名にし、具体的な手順を決めて計測を行う。 焼却発電の一般廃棄物排出量は 967kg で、昨年度より 136kg (16.4%) 増加した。これは、社員数が 3 名増加したことや売上の増加、さらに、2023 年 6 月に 2 年分の伝票を処分した等が原因と考えられる。今後も種類毎にゴミ箱を設置して分別を徹底し、計測漏れやミスをなくして廃棄物量の削減に取り組んでいきたい。
	(5) グリーン購入 ①事務所内の備品は環境に配慮したものを購入するように努める。	通 年	社内で使用する紙は再生紙を使用、事務用品は詰め替え用を使用するなど、品質や価格だけではなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。今後も、環境に配慮した商品の購入に努めたい。

環境方針⑤

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品の選定をするように努めます。	(1) 電力 ① 高圧洗浄機の適切な使用を心掛ける。 ② 作業場の使用していない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ③ 必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する。 ④ 使用しない電気器具は撤去する。 ⑤ 作業場の使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。	通年	山川機材センターの 100V 使用量は 10,738kwh で、昨年度より 12,346kwh (53%) の大幅な減少が見られた。主な要因としては太陽光発電を導入した事と、環境班が東風平機材センターに移った事が考えられる。 200V の使用量は 4,746kwh で、昨年度から 2,725kwh (135%) 増加した。熱中症対策として各作業場に大型スポットクーラーを設置した事が主な要因と考えられる。 東風平機材センターの 100V 使用量は 885kwh で、昨年度より 448kwh (102%) 増加した。これは、環境班の活動拠点を東風平機材センターに移したためと考えられる。
	(2) 燃料 ① 車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。 ② 不必要なアイドリング、空ふかしの禁止。 ③ 安全運転を徹底し、エコドライブを意識する。 ④ 配送車両の過積載をしない。 ⑤ 車両の定期点検（潤滑油・空気圧他）を行う。 ⑥ 適切な配送ルートをとる。 ⑦ 燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。	通年	ガソリン使用量は 31,158ℓ で、昨年度より 1,486ℓ (5%) 増加と大きな変化は見られなかった。配送件数が 10,138 件から 10,261 件と、大差がなかったためと考えられる。 軽油は 39,247ℓ で、昨年度より 2,308ℓ (5.5%) 減少した。バックホー 2 台を売却したことが原因と考えられる。 売上は 23.5% 増加したが燃料の使用量に大きな変化は見られなかった。これは、濁水処理装置を増設したことで売上は増えたが、運搬業務は主に外注車両を使用したためと考えられる。
	(3) 水資源 ① レンタル機器の洗浄に雨水タンクに貯水した水を使用する。 ② 機械等の洗浄水は、濁水処理装置で処理し再利用する。 ③ 仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を使用することによって、水の使用量を削減する。 ④ 雨水タンクに流水計の設置を検討する。	通年	山川機材センターの使用量は 400 m³ で、昨年度より 73 m³ (22.3%) 増加した。2023 年度の沖縄県の降水量は 2,291mm で、昨年度より 705mm (23.5%) 少なかった。このため、洗浄作業により多くの水道水を使用したと考えられる。 東風平ヤードの使用量は 97 m³ で、昨年度より 72 m³ (288%) 増加した。環境班が東風平ヤードに移り、濁水処理装置の洗浄作業などを行ったためと考えられる。

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。 また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	(4) 廃棄物排出量の削減 ①廃棄物の分別を徹底し、できるだけ有価物（鉄くず、廃油、バッテリー等）を増やすようにする。 ②バックホー等に付着する泥を、できるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。 ③廃棄物をより細かく分別する。 高圧ホース、樹脂製ホース類、ゴム、プラスチック、塩ビパイプ、継手類、電線、木材、鉄屑、廃油、電球、乾電池、バッテリーの 13 種類に分別。	通 年	廃棄物排出量は 8,678kg で、昨年度より 548kg (5.9%) 減少と大きな変化は見られなかった。売上は 23.5% 増加したが排出量に大きな変化が見られなかったのは、通常レンタルで提供していたホース類を販売提供が増えたためと考えられる。 廃油は昨年度より 0.6kg (50%) 減少した。これは、0.2・0.1 バックホーを各一台ずつ売却した為と考えられる。 残土は 5,950kg で、昨年度より 3,500kg (37%) 減少した。濁水処理装置の洗浄作業を東風平機材センターで行っている為と考えられる。 金属は 14,039kg で、昨年度より 1,237kg (8%) 減少とあまり大きな変化は見られなかった。これからも廃棄物の分別に努めたい。
	(5) グリーン購入 ① 車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選び、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。 ②NETIS(新技術情報提供システム)登録商品の導入を進めていく。		2023 年度は軽トラックを新たに 5 台導入した。そのすべてが平成 27 年度燃費基準 15% 向上達成車のため、CO2 削減に繋がっている。外間事務所に太陽光発電を設置して自社の電力を補い、売電も行っている。 NETIS 登録商品は、快適トイレを 7 台、高圧洗浄機（防音型・200K）1 台を導入した。 今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めて行きたい。

環境方針⑥

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	(1) 関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめ社員へ周知する。	通 年	薬品保管庫内に「薬剤数量管理表」及び「薬剤の取扱い基準」を掲示し、薬剤の数量管理や取扱いを適切に行った。
	(2) 当社で取扱う化学薬品の特徴や取扱いについて、社内学習会を行う。(年 1 回)	通 年	2023 年 5 月から 7 月の間に計 4 回勉強会を開催し、そのなかで薬品についての学習も行った。

環境方針⑦

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	(1) 環境問題について社内学習会を行う。(年 1 回)	通 年	12 月 25 日の全体会議において環境レポートの説明を行った。
	(2) お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	通 年	2023 年度も継続して、ホームページやラジオ番組「人間大好きリレージョッキー」で環境への取り組み等の発信を行った。
	(3) 環境フェア等へ出展する。	通 年	県産業まつりの「同友会輝くうちな一企業見本市」に出展し、環境経営と濁水処理装置の仕組みなどを紹介した。

環境方針⑧

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	(1) 環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年 6 月と 12 月に確認する。	通 年	6 月 15 日と 12 月 8 日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。
	(2) 環境関連法規についての社内学習会を行う。(年 1 回)	通 年	2023 年度は社内学習会を行うことができなかったため、2024 年度は計画して行う。

環境方針⑨

方 針	2023 年度の環境経営計画	目 程	2023 年度の取り組み結果と評価
全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。	(1) 環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。 ① 6 ヶ月に一度、全体ミーティングでエコアクション 21 の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年 2 回) ② 環境委員会を定期的に関き(毎月 1 回)、環境委員のレベルアップを図る。 ③ エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。	通 年	エコアクション 21 の取り組み状況の確認・報告は 2 回(9 月・11 月)、環境委員会は 11 回開催した。 また、エコドライブ講習会を開催し、外部から講師を招いて燃費削減の効果やエコドライブについて学んだ。さらに、講習終了後に環境に対する意識調査を行った。参加前と参加後では環境に対する意識の向上が感じられた。

【4】10年間の環境活動の取組結果

図1. 過去10年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量（売上高百万円当たり）

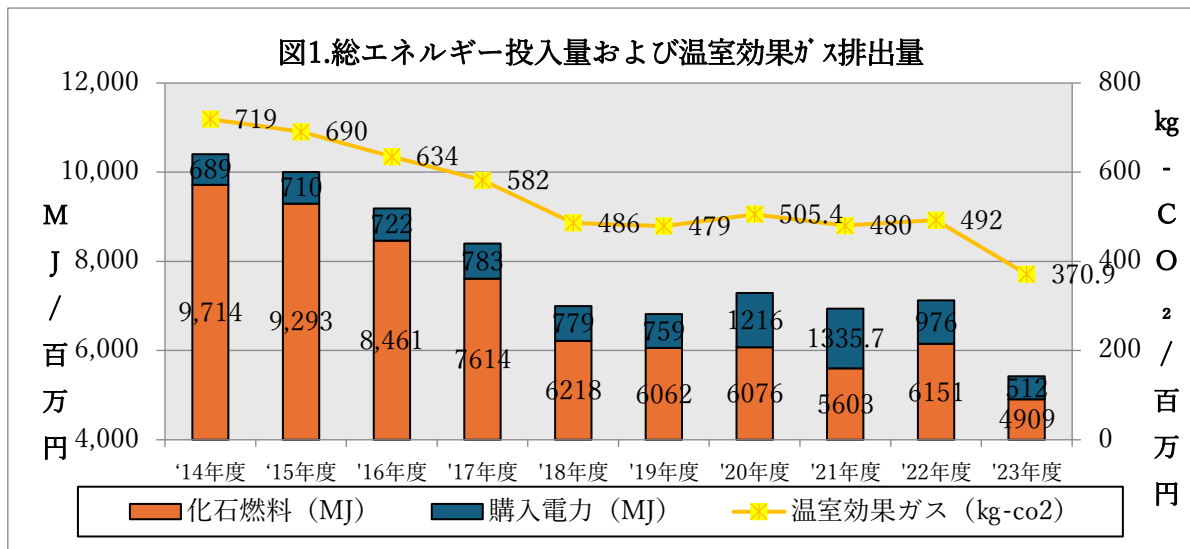


図1より、化石燃料は2021年度までは大型重機やダンプトラックの保有台数を減少させてきたことで使用量が減少しているが、2022年度は売上増加に伴って配送車両やレンタカー、発電機等のレンタル機械で使用量が増加したと考えられる。2023年度は売上高が増加したが、濁水処理事業の需要が増え、濁水処理装置の運搬業務には主に外注車両を使用したことが減少した原因と考えられる。

また、購入電力は2019年度までは大きな変化はみられないが、2020年5月の事務所移転で増加し、2022年4月に外間本社、2023年5月山川機材センターに太陽光発電を導入したため減少した。自然エネルギー活用 の効果が表れている。

温室効果ガス排出量は、化石燃料と電力使用量の減少により、この10年ではほぼ半分まで減少させることができた。

2024年3月には、東風平機材センターにも太陽光発電を導入したので、その効果も確認していきたい。

図2.過去10年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

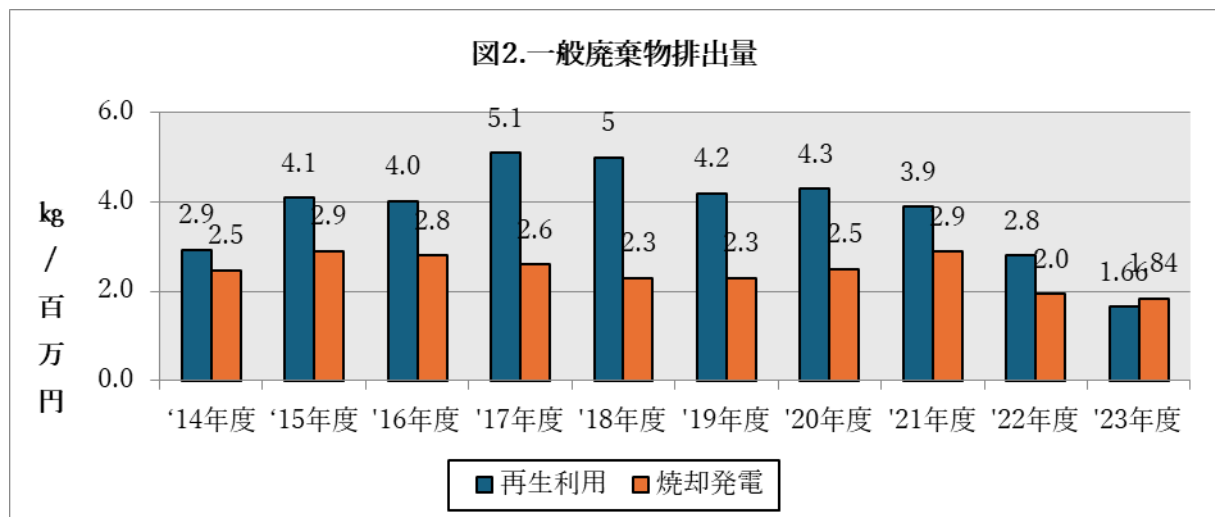


図 2 より、再生利用は 2017 年度と 2018 年度は増加し、2021 年度からは減少傾向となっている。2017 年度から来店されるお客様に飲み物を提供していて、その空缶やペットボトルが増加したと考えられ、2021 年度からの減少は、お客様に提供する飲み物をお帰りの際にお渡ししてお持ち帰りいただくようにしたことや、ほとんどの社員がマイボトルを使用するようになったこと、コロナ感染症対策で全体会議の回数が減ったこと等、空缶やペットボトルの排出量が減少したためと考えられる。また、2023 年度には山川機材センターに設置していた飲料販売機を撤去したこともさらに減少した原因と考ええる。

焼却発電も全体会議の回数が減ったため、お弁当の空き容器等の排出量が減少したと考えられる。2023 年度の再生利用は段ボールの計測漏れがあったので、具体的な手順を決めて計測を行い、記入漏れをなくして日々のデータを残していくことを徹底したい。

図 3.過去 10 年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

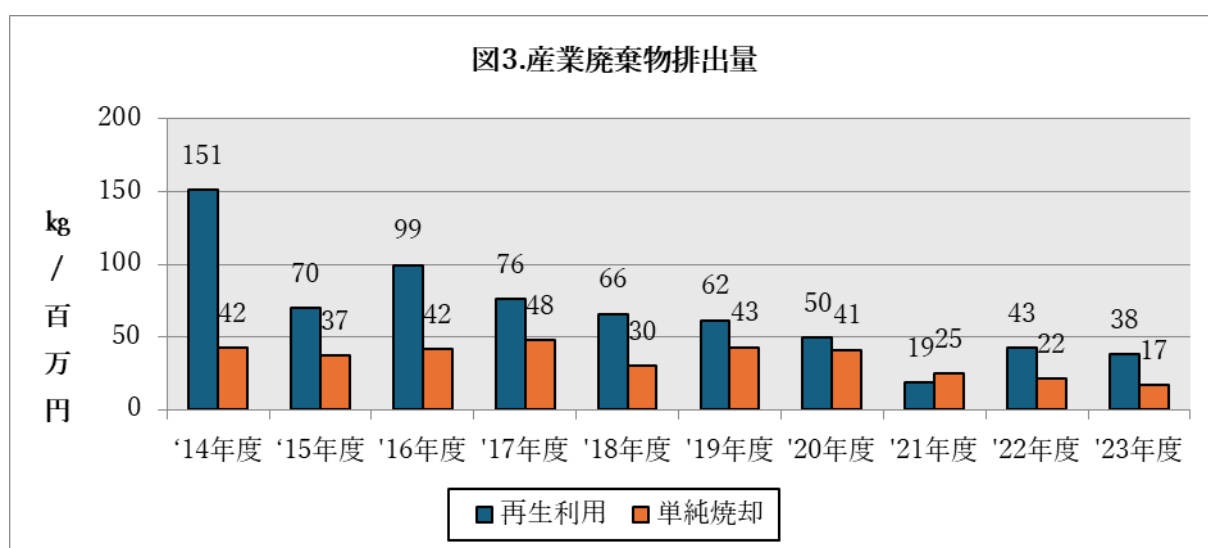


図 3 より、再生利用は 2014、2016、2017 年度に排出量が増加している。2014 年度は事務所に隣接する河川工事に伴う機械置場の減少、2016 年度は友寄ヤードの機械置場の減少、2017 年度は友寄ヤードから山川機材センターへの引越があり、その際に不用品を処分したため排出量が増えた。また、2014 年度は濁水処理装置(4 台)とタイヤ洗浄機等を廃棄処分したので、特に排出量が多くなった。2018 年以後の再生利用の減少傾向については、大型重機類(バックホー等)の保有台数が減少したため、返却時に付着してくる土砂量の減少が考えられる。2022 年度の増加は、洗い場の沈砂池を浚渫し大量の土砂を廃棄処分したためと考えられる。2023 年度は減少したが、大きな変化がみられなかった。

単純焼却については、ほぼ横ばいで推移していたが、2020 年度の引越以後は減少傾向にある。これは、廃棄物の分別種類と容器を増やし、分別方法も分かりやすく表示したことが要因と考えられる。

図 4.過去 10 年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

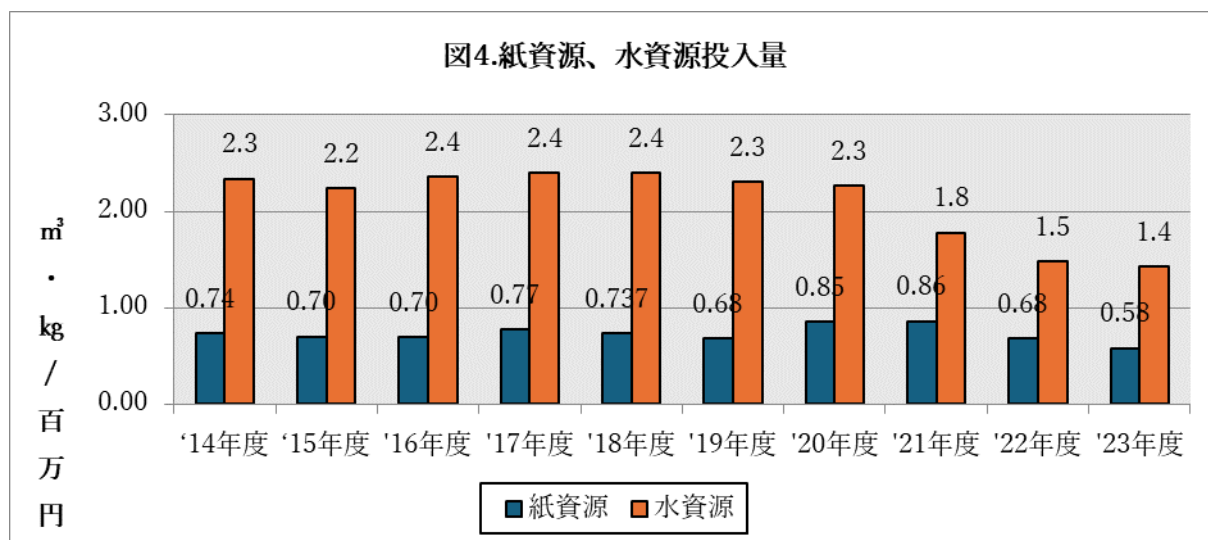


図 4 より、紙資源投入量は 2014 年～2019 年度までは 0.7kg/百万円程度で推移していたが、2020 年、21 年度は増加し、2022 年度は減少した。2020 年、21 年度は、事務所移転による伝票等の作り直しにより投入量が増加したと考えられる。2022 年度は、コロナ感染症対策のため全体会議等の回数が減り、コピー用紙の使用量が減少したためと考えられる。2023 年度は売上は増加したが、配送件数や伝票発行数は増えなかったため、百万円当たりの投入量は減少したと考えられる。

水資源投入量は 2022 年度は減少傾向となっているが、山川機材センターに雨水タンクを 1 基増設した事が要因と考えられる。水は主にレンタル機械や商品の洗浄水として使用しているので、濁水処理装置の処理水再利用や雨水タンクの増設を進めて、水資源投入量の削減に取り組んでいきたい。

表 5 に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表 5.養殖サンゴの苗の移植放流数

活 動 年 度	移植放流数	備 考
2009 年度	17 本	
2010 年度	57 本	
2011 年度	62 本	社員分 27 本含む
2012 年度	28 本	
2013 年度	38 本	
2014 年度	79 本	創立 35 周年記念 (35 本) 含む
2015 年度	47 本	
2016 年度	50 本	
2017 年度	35 本	
2018 年度	59 本	
2019 年度	46 本	
2020 年度	76 本	
2021 年度	71 本	
2022 年度	118 本	半年経過分 (10 本含む)
2023 年度	176 本	半年経過分 (81 本含む)
合 計	959 本	



Presented by sea seed.co
 Coral No. 37741-37773
 Date. 11th Aug., 2015
 Point N 26 ° 24 ' 28.32 "
 E 127 ° 42 ' 51.48 "
 Transplanted by Seed in sea Co., Ltd.
 SeaSeed

2009 年度から「海の種」様の協力を得て、養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っている。

移植放流後、サンゴ移植完了報告書『海からの感謝状』をお客様に届けている。

15 年間で 959 本の移植放流を行った。

【5】次年度の主な活動計画

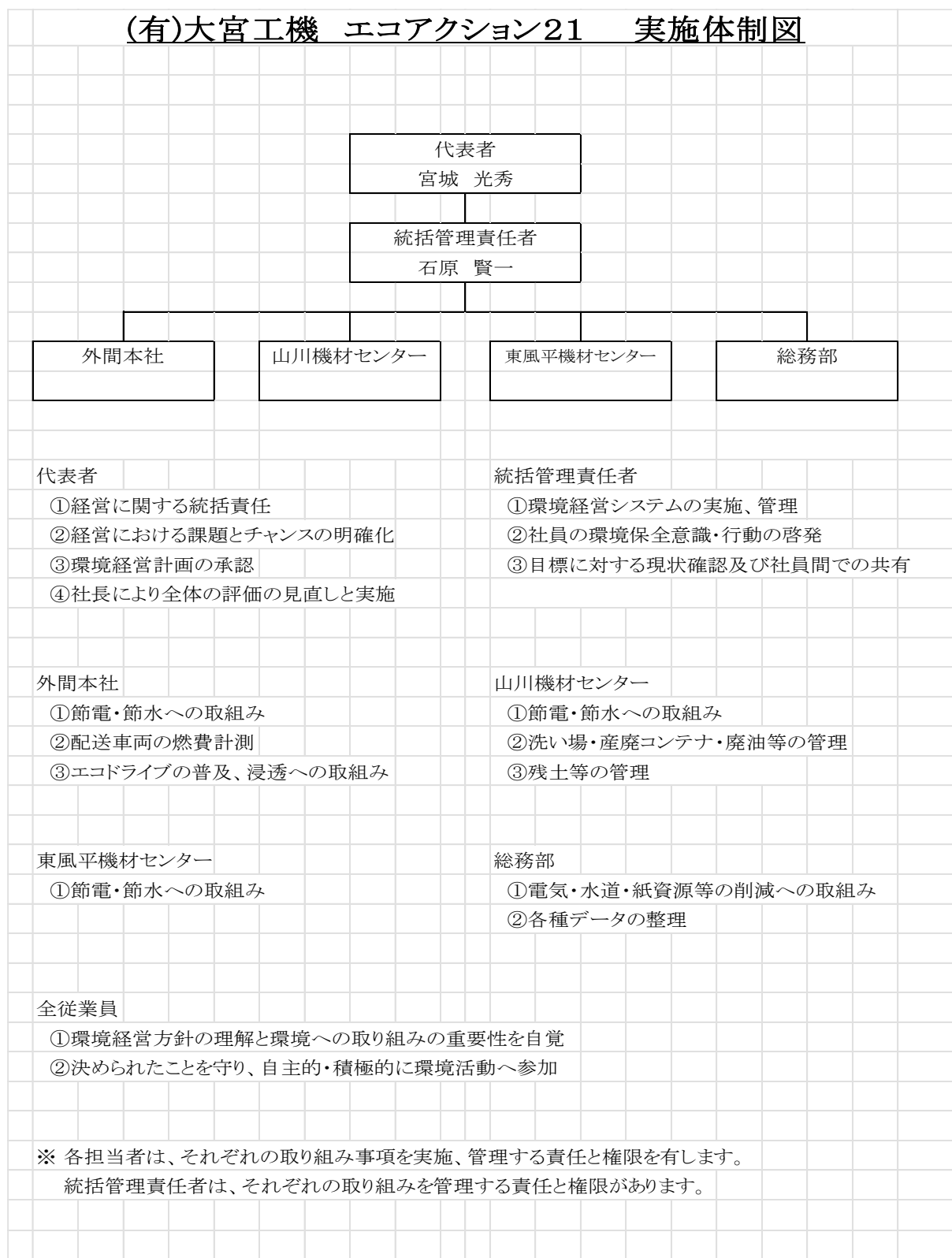
環境方針① お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。
・低騒音型発電機とインバーター式発電機及び LED 照明器具の導入を更にすすめます。
環境方針② 濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
・お客様のニーズに対応した濁水処理装置や計測装置の開発をすすめます。
環境方針③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組めます。
・濁水処理装置を 1 台納入する毎に養殖サンゴの苗を 1 本ととして、納入から半年経過毎に 1 本を移植放流する活動を継続します。
環境方針④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力・・・電気器具のスイッチをこまめに切り工夫を重ねて節電に取り組めます。エアコンのメンテナンスを行います。 2022 年 4 月に本社、2023 年 5 月に山川機材センター、2024 年 3 月に東風平機材センターに太陽光発電を導入、2023 年 2 月にエアコン冷媒の入替えをしたので、その効果を確認します。
(2) 水資源・・・節水コマの使用や蛇口をレバー式に取替えるなどして、無駄を省きます。
(3) 紙資源・・・文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で使用量削減を図ります。
(4) 一般廃棄物・・・分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をします。
(5) グリーン購入・・・環境に配慮した商品の購入に努めます。
環境方針⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組めます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
(1) 電力・・・高圧洗浄機等の適切な使用や作業場照明の LED 化等を行い、節電に取り組めます。
(2) 燃料・・・安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避けます。 エコドライブ講習会に未受講の社員を優先的に参加させます。
(3) 水資源・・・レンタル品や車両の洗浄に雨水や処理水を利用し、水資源の使用削減に努めます。
(4) 廃棄物排出量の削減・・・分別を徹底し、資源の再利用に努めます。
環境方針⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
・化学物質の適正な管理を徹底します。
・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行います。(年 1 回以上)
環境方針⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、お取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
・環境問題について社内学習会を行います。(年 1 回) ・中小企業家同友会の「見本市」に出展します。
・お客様、お取引先等へ環境活動レポートを配布します。また、ホームページやラジオ番組、CM 等を活用して環境情報を提供します。
環境方針⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を 6 月と 12 月に確認します。
・環境関連法規について社内学習会を行います。(年 1 回)
環境方針⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組めます。
・全社員でエコアクション 21 の取組状況を確認し、改善点等について検討します。(年 1 回)
・環境委員会を定期的に関き、環境委員のレベルアップを図ります。(月 1 回)
・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加します。

【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

以下の環境関連法規への違反、提訴等は 1987 年 5 月設立以来、1 件もありません。

廃棄物処理法・家電リサイクル法・水質汚濁防止法・下水道法・浄化槽法・オフロード法・
自動車リサイクル法

【7】実施体制図



【8】代表者による全体評価と見直し

2023 年 7 月、国連のアントニオ・グテーレス事務総長は、世界の平均気温が観測史上最高記録を更新したことを受け、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が始まった」と述べた。日本においても 2023 年の夏は観測史上最も暑く、2024 年もそれに匹敵する暑さとなっている。

日本政府は 2050 年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにすることを表明し、エネルギー政策を見直した。当社も温暖化をはじめとする環境問題を最重要課題と捉え、濁水処理事業や養殖サンゴの苗の移殖放流活動の支援等の取り組みを拡充していく。また、2022 年に本社、2023 年に山川機材センター、2024 年に東風平機材センターに太陽光発電パネルと蓄電池を設置した。

当社のエコアクション 21 の取り組みは 18 年目となるが、環境活動レポートを速やかに作成することを課題の一つとしてきた。今回も昨年に引き続き、約 4 か月で完成できたことは、環境委員の皆さんの努力の賜物であり、評価したい。

2020 年 5 月に本社移転と山川機材センター開設、2024 年 1 月に東風平機材センター開設等の変化があったが、以前と比較して良くなった点や改善すべき点を洗い出し、効果的かつ持続可能な取り組みを推進してもらいたい。

環境方針①～⑨の評価と見直しについて下記に述べる。

環境方針①では発電機について考察がなされ、低騒音型やインバーター式など、より環境負荷が小さい製品の導入が進んでいる。今後は発電機以外にも考察の幅を広げてほしい。

環境方針②では、濁水処理装置の保有台数が昨年から約 1.5 倍に増え、稼働率も上昇させたことによって流出防止土砂量を増加させることが出来た。今後も更に増加できるように取り組んでもらいたい。

環境方針③では、濁水処理装置の保有台数と稼働率が増えたことから、目標より多くのサンゴを移殖放流することが出来た。

環境方針④、⑤は、計測漏れが起きないように取り組みを改善し、分析を的確に行ない、より適切な使用に近づけるよう努力してもらいたい。

環境方針⑥～⑨については、昨年度までコロナ禍の影響で出来なかった学習会の開催や外部講習会への参加を再開することができた。今後はより充実させていってほしい。

- | | |
|----------|-------------|
| ・ 環境経営方針 | 変更せず今後も継続する |
| ・ 環境経営目標 | 変更せず今後も継続する |
| ・ 環境経営計画 | 変更せず今後も継続する |
| ・ 実施体制 | 変更せず今後も継続する |